

2020年6月26日

各位

社長就任挨拶について（要旨）

本日、ENEOSホールディングス本社（東京都千代田区）にて行われました、当社社長 大田 勝幸の社員に向けた「就任挨拶（要旨）」を下記の通り、お知らせいたします。

記

低炭素・循環型社会への期待やIT化の加速など、大きな環境変化が私たちを取り巻いています。また、新型コロナウイルスによって、予期しなかった変化が世界規模で起きており、経済、社会活動の変化のみならず、新たな秩序、新たな価値観がもたらされることが予見されます。今まで当然だと思っていたことが、今後は価値を持たなくなるかもしれません。

先行きが不透明な中ですが、私たちはありたい姿に向けた取り組みのスピードを大きく加速させ、早く成果を出すことが一層強く求められることだけは、間違いありません。

1. 私たちの使命

多くの経済活動が止まる中でも、私たちの会社は社会基盤を支える役割を担い続けています。

私たちはこのことに誇りと自信を持ち、今後もエネルギーや高品質の素材を供給することで社会課題を解決し、明るい未来の創出に貢献し続けましょう。それが私たちの使命であり、グループ理念でもあります。

私は、私たちの事業活動が、社会を支え、社会課題を解決して価値を認められているからこそ、その価値が利益となり、企業として存続できると考えています。将来にわたり利益を出す会社であり続けること、そのために私たちは長期ビジョンを作りました。

2. 私たちがやるべきこと

ビジョンや計画の作成はあくまでも出発点に過ぎず、重要なのは実行と成果です。長期ビジョンの足掛かりとなる第2次中計達成に向け、具体的にやるべきことを3つ申し上げます。

第1に、将来の利益を生み出す新規事業を推進し、環境変化に強く、バランスの良いポートフォリオをスピーディーに作り上げることです。新規事業の糸口は出来つつありますが、これからは蒔いた種を芽吹かせ、果実に結び付けていく段階です。そのためには、大胆でスピーディーな挑戦の繰り返しが必要です。

2つ目は、石油精製販売や銅精錬などの基盤事業を一層磨き上げて、競争力を強化し、お客様にとっての魅力を高めることです。基盤事業においても、デジタル化の推進や外部の知恵・技術も取り込みながら、新たな価値を生み出していくというチャレンジが必要です。

3つ目は、経営基盤強化に向けた会社の制度・構造改革、企業風土の変革です。変化に柔軟かつ素早く対応し、時には変化を先取りして、自ら未来を作り出す企業になることです。

また、不透明で変化の激しい将来に対し、多様性に富んだ人材が新たな変化を起こす力になると考えています。様々な個性が明るくぶつかり合いながら、新しいことに挑戦する企業を目指しましょう。

3. 決意とお願い

つぎに、皆さんとともに心掛けたいことを3点お話しします。

まずは「変革への挑戦」です。現在の延長線上で考えるのではなく、変化を脅威ではなくチャンスととらえる、変化を進歩や成長と同じものとみなす意識の転換が必要です。アイデアや変革のきっかけは身近にも必ず転がっています。出来ない言い訳を考えるのではなく、どうすれば出来るかを考えましょう。

そして、勇気をもって新たな世界に飛びこむこと。考えてから行動するのではなく、行動しながら考え、時には方向転換し、今までのものを捨てる覚悟も必要です。その覚悟をもって私自身も、皆さん一人ひとりも変わらなければなりません。

1人が変革の情熱を2人に伝え、それを繰り返すと、15人目、16人目には、私たちのグループ全員に変革の情熱が行き渡ります。

2つ目はスピード重視です。スピードの持つ価値は変化の激しいこの時代にはとてつもなく大きいものです。素晴らしいアイデアがあっても、他に先を越されれば、価値は大きく下がります。私たちが目指すのは、大きいけれどスピードがある、小さな会社のように行動する大きな会社です。

3つ目は、成果への拘りです。成功するかしないかの差は、最後のあと一步をやりぬくかどうかです。あきらめないでとことん考える。果敢に実行に移し、その内容にどれだけ魂をこめるかにかかっています。皆で、スピードを重視し、成果に執着する企業文化を作っていきましょう。

4. 最後に

変化の中において、本来大切にすべきこと、軸足とすべきことは、私たちの使命、企業理念に常に立ち戻ることです。チームとしての軸、力の源泉は、みんなで共有化された「企業理念・行動指針」であり、「長期ビジョン」への強い思いです。一人でできることには限界があります。今は感染を防ぐために社会的距離を取るようには言われていますが、私たちの心の距離だけは離れ離れになることなく、ENEOSグループとして力を発揮すれば、結果は大きく変わってきます。

今回、グループ名、エネルギー事業会社名をENEOSに変更しました。このブランドを、新たな、さらに魅力ある、世の中に価値を生み出す世界ブランドに、皆で育てていきましょう。

以上